

事業のポイント

- 徳島づくり（地域支援技術開発、コミュニティビジネスモデル創出）
- 地域課題解決事業（地域活性化・地域情報化支援、特産品開発、景観デザイン）

事業代表者・連絡先

吉田敦也（地域創生センター・センター長）
770-8501 徳島市新蔵町2-24
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-7652
e-mail: yoshida@cr.tokushima-u.ac.jp

1. 事業の目的

今日の大学においては、中教審答申「我が国の高等教育の将来像」(H17.1.28)や教育基本法の改正(H18.12)に伴い、研究・教育を通じた社会貢献のみならず、大学の「第三の使命」として多様で、より直接的な社会貢献活動が進んでいる。特に、地方の国立大学では地域への貢献に対する期待が生じている。こうした流れの中、本学では、地域連携戦略本部を設置し、地域連携推進室による組織的取り組みを展開しており、これを地域創生センターが、実践的地域戦略のもと、より具体的な形で、「魅力・活力ある徳島づくり」活動として展開している。

2. 事業の取り組み状況

【地域ICT化推進部門事業】

<一次産業へのアプローチ>

◆高齢社会/エコ社会での中山間地域農業支援

農作業用無人ヘリ・倒立振子型飛行体の研究：農産物への農薬散布や生育観察などに適した無人ヘリを子ども高齢者でも安全簡単操作できる知能化の研究を開始した。温室や果樹園など狭空間に適した小型安全な倒立振子型飛行体も開発した。

■追従型無人自動車に関する研究

自走型耕耘機や電気自動車の走行中充電を可能する自動追従無人自動車に関する研究を開始した。

<地域情報化へのアプローチ>

スマートメディア/モバイルインターネット社会化支援

■情報ポストイットアプリの開発 (R1G0)
地域情報の共有の活性化に適した、GPSを備えたスマートフォン (iPhone) から位置情報を伴ったコメントの投稿、およびアップされたコメントをマップ上で一

覧できるアプリを開発した。

【地域マネジメント部門事業】

■地域再生塾かきまぜプロジェクト

郷土料理「かきまぜ」ブランド化の取組みとして、HP、町内「かきまぜ」飲食店マップ、ポスター・幟のデザイン、ゆず酢のポスター作成等を行った。また、那賀町地域再生塾の塾生らでつくる「丹生谷応援団」が運営した「ゆず料理グランプリ」にもアドバイス、ポスターデザインなどで協力した。

■南阿波サンライン再生プロジェクト

徳島県南部総合県民局からの南阿波サンライン再生に関する依頼を受け、学長裁量経費（社会貢献）を得て再生プロジェクトを開始した。初年度は南阿波サンラインの認知度調査（ガイドブックへの掲載率）、景観資源、植生調査、利用者へのヒアリング等を行い、再生の方向性を検討した。

【地域資源活用部門事業】

■阿波薬膳の開発

徳島県観光協会、東洋病院、地域活用資源部門の3者がホテルなどの料理人と薬膳についての勉強会を何回も開催し「阿波薬膳」を開発した。

■藍の再認識を目指した「あい研究会」活動

県南の衣料品メーカー、南部県民局と「あい勉強会」を開催し藍の有効利用についての取組みを開始した。

■那賀町つり橋プロジェクト

那賀町丹生谷にある吊り橋を調査し、「丹生谷の吊り橋50選」として案内地図にまとめ、町内の道の駅、温泉施設などで無料配付した。

【地域連携教育開発部門事業】

■第四回 四国GISシンポジウムの開催

中等教育や大学教育および専門技術者

を養成するためのGIS教育のありかたと、地方自治体におけるGIS導入と利活用（危機管理、市民参加、業務効率化）について、公開シンポジウムを開催予定。

■iPhoneアプリ開発プロジェクト
(make.app)

大学院SAS研究部と地域創生センターが連携し取組む教育プロジェクト「make.app」において、総務省ICTふるさと元氣事業「とくったー」「お母さんのためのタッチ&ケア」の2事業のスマートフォン (iPhone) アプリ受託開発を行った。

■徳島ロボットプログラミングクラブ
NPO徳島インターネット市民塾、徳島大学工学部創成学習開発センターと連携で徳島市内の小中高生を対象に、ロボットプログラミングクラブを年14回開催した。JST「地域の科学舎支援事業」の助成を受け徳島大学工学部学生と共同運営した。

3. 事報道実績

2010.9.3 徳島新聞「木頭ゆず創作料理作ろう」

2010.6.2 徳島新聞「吊り橋観光資源に那賀の住民グループ、案内地図作製」

2010.6.52 徳島新聞「地元食材で薬膳美馬と神山の宿泊施設、徳大などメニュー開発」

2010.12.12 徳島新聞「『かきまぜ』観光資源に」

4. 表彰

2010.12.16 make.app 「とくしま Web 大賞 2010 e-ネタ部門準大賞受賞」